

美術表現研究 講義「幼児表象画」
ダイアグラム〈単体図〉の描画発達

竹永亜矢

Study on Expressions in Art based on the Course, "Infantile
Representational Drawings": Drawing Development during the Diagram
Stage

Aya Takenaga

Abstract

During the development of children's drawing, children acquire an ability to draw a variety of lines and shapes, which form the basis of drawing, during the scribble period, and their drawings transition to the diagram stage, as a result of their experience and memory so accumulated.

On the basis of the analysis of the process of transition from the scribble stage and drawings showing characteristics of diagrams, this paper considers how one should understand and support expressions through drawings of diagrams by children, who express themselves in diverse individual ways as their mind and body develop and as their activities such as everyday playing and communication with others expand.

Keywords: infantile representational drawings, drawing development, diagrams, expressions in art, Rhoda Kellogg

要約

子どもの描画発達は、スクリブル期、描画の基礎となる線や形のバリエーションを獲得しその実体験と記憶の蓄積に導かれダイアグラム〈単体図〉へと移行する。

本論ではスクリブル期から移行する過程とダイアグラム〈単体図〉の特徴を示す描画作品の分析から、心身の発達、毎日のあそび、他者とのコミュニケーションといった活動の広がりとともに、個性豊かに表現を展開させるダイアグラム〈単体図〉の描画表現への理解と援助のありかたを考察する。

キーワード: 幼児表象画・描画発達・ダイアグラム・美術表現・ローダ・ケロッグ

1. はじめに

毎日のあそびの中で繰り返される描画の実体験は、生後 10 ヶ月頃より開始される子どもの描画「スクリブル (scribbles)」(Rhoda Kellogg 1998) から獲得された表現形態の映像は脳に記憶され、必要に応じてその記憶をたどり、子どもの意志で再び描画表現されるようになる。体を動かした拍子に自身の運動軌跡が残ることに感動と好奇心を抱きながら意欲的に描画を通して表現を探索するスクリブル期、表現の基礎となる形のバリエーションを実体験から獲得し、それぞれの子どものタイミングで次の発達段階「ダイアグラム (diagrams/単体図)」へ移行を進める。

描画の発達は、「スクリブル (scribbles)」から「ダイアグラム (diagrams/単体図)」へと移行し、それに続く「コンバイン (combines/結合図)」、「アグリゲイト (aggregates/集合図)」発達の最終段階「ピクチャーステージ (picture・stage/絵画期)」まで、全ての発達過程を繰り返しながら 0 歳から 6 歳の幼児期に描画表現の基礎を獲得する。



幼児期の描画は、五感を通じたあそびや生活での腕の動作、運動といった偶発的なアクセシビリティによって、画面への軌跡を残し、その記憶から新しい発見や表現へ導かれる。生後 10 か月頃から開始される「スクリブル」を経て「ダイアグラム (単体図)」へ移行する 2 歳～3 歳にかけて、心身の成長と共に運動能力の発達からダイナミックな描線が生まれ、描画の意味づけや、記号化された具象的な形態「表象画」が描画されるようになる。「表象画」の描画による他者と共通認識、思い出やイメージの共有、共感コミュニケーションを活発にし、こどもに描画の“やりがい”と“よろこび”を実感させる。その体験から更に新たな実験を繰り返す探索意欲を高め、描画表現を発達させる。

斎藤 (2014) はおよそ 600 万年前に共通の先祖から別れ、ゲノム DNA の差異がわずか 1.2% という人間に最も近縁な種であるチンパンジーは「ダイアグラム (単体図)」を描画する 2～3 歳の人間の子どものように劣らない描線をコントロールする運動調節能力を持っているが、描画経験が豊富な大人のチンパンジーであっても、描画表現はなぐり描き「スクリブル」の範疇にとどまっておき [図 1.b] 人間の子どものように客観的に見て何が描かれているか分かる「表象画」やあいまいな形に具体的な物の形をイメージして描く見立てあそびのような創造活動への発展はどのチンパンジーにも表れなかったとしている。

「スクリブル」から「ダイアグラム (単体図)」への発達は、人間が地球上の生命体の中で描画表現を独自に発達させ、伝達手段としての描画表現「表象画」から、言葉や文字、人間関係、社会性の獲得と、それに続き展開される豊かな創造性と表現活動の発達に向けた第一歩となる。

本論ではローダ・ケロッグ (Rhoda Kellogg 1998) 『幼児絵画の発達』とジェローム・シーモア・ブルーナー (Jerome S. Bruner 1976) 『認知能力の成長と 3 つの表象』に基き、「スクリブル」から「ダイアグラム (単体図)」への移行と「ダイアグラム (単体図)」の描画作品の分析から、子どもの描画発達への理解と援助について考察する。

図1. 人間の子どもとチンパンジーのスクリブル描画

	
<p>作品 a. 人間の子ども男児 K (1 歳 6 か月) による描画作品</p>	<p>作品 b. チンパンジー「アイ」による描画作品</p>

作品 b. 出典：『京都大学霊長類研究所チンパンジー・アイ』 描画紹介

[https://langint.pri.kyoto-u.ac.jp/ai/ja/album/drawings_by_apes.html#\(grid|filter\)=chloe;](https://langint.pri.kyoto-u.ac.jp/ai/ja/album/drawings_by_apes.html#(grid|filter)=chloe;)

2. 描画の考察方法

(1) 描画の分類方法 ローダ・ケロッグ『幼児絵画の発達』 (Rhoda Kellogg 1998)

- I. スクリブル (scribbles) 前期・後期
- II. ダイアグラム (diagrams/単体図)
- III. コンバイン (combines/結合図)
- IV. アグリゲイト (aggregates/集合図)
- V. ピクチャーステージ (picture・stage/絵画期)

以上 I～Vの発達過程から II. ダイアグラム (diagrams/単体図) を分析対象とする。

(2) 表象の分類方法 ジェローム・シーモア・ブルーナー

『認知能力の成長と3つの表象』 (Jerome S. Bruner 1976)

- I. 動作的表象 (enactive representation)

自己中心、外と内の区別が確かではない。動作による直接的な (感覚運動的) 把握
- II. 映像的表象 (iconic representation)

表面的な形のイメージ (映像) による対象の把握
- III. 象徴的表象 (symbolic representation)

文字・記号・言語による対象の把握

上記3段階の表象発達を遂げた成人においては、全ての表象を持ち合わせて生活している。

(3) 対象作品の描画年齢 (週齢)

誕生から1歳2か月 [387日/61週目] で開始された男児 K の縦断的描画作品群からスクリブル後期～ダイアグラム (単体図) への移行期を含め、ダイアグラム (単体図) の特徴を示す1歳8か月 [607日/92週目] ～3歳 [1098日/163週目] まで。

(4) 対象作品の描画環境（保育者の関わり）

・観察者、記録者

保護者（母親）が立ち合い、描画した日付、描画の様子、男児 K と観察者の会話、コミュニケーション内容を記録、作品は描画日付順に保存。

・観察者の描画活動への関わり

子どもの描画中、観察者（保護者を含めた大人）は指導的介入をしない。

描画する子どもからのアプローチ、声掛けには応じ、子どもから描画への参加欲求があった場合や状況に応じて観察者も描画に参加する。

・描画環境

描画環境（用紙・画材）は生活する場に常時整え、子どもが描画を欲求した場合、いつでも描画できるよう準備し、描画開始のタイミングは子どもに委ねている。

分析対象作品は全て男児 K の自宅で描画されたものであり、幼稚園で描画された作品は含まれない。

(5) 考察対象の描画作品

考察対象作品は、男児 K のスクリブル後期ダイアグラム〈単体図〉への移行開始（1歳8か月）～コンバイン〈結合図〉移行前（3歳）までの作品 72 点より、発達段階の特徴を示す作品 36 点を抽出、3 段階の発達段階〔表 1. I～III〕で分類。

表 1. 抽出作品 36 点の分類

分類	発達段階	作品点数
I	スクリブル後期～偶発的ダイアグラムの表出作品	3 点
	ダイアグラム〈単体図〉への移行作品	9 点
II	ダイアグラム〈単体図〉の表出作品	15 点
III	ダイアグラム〈単体図〉からコンバイン〈結合図〉へ移行作品	9 点
抽出作品 合計		36 点

(6) 表 2. 男児 K の「ダイアグラム〈単体図〉描画作品発達表」表記内容

作品番号（1～72）、抽出作品番号 D-1～4、描画年齢・子どもの言葉の記録有無、絵画の発達段階、表象の発達段階を表記。

表2. 男児 K「ダイアグラム〈単体図〉」描画作品発達表 【全72点】

スクリブル後期ダイアグラム〈単体図〉への移行開始からコンバイン〈結合図〉移行まで

作品番号	抽出作品番号	描画年齢	子ども 言葉の記録	発達段階		作品番号	抽出作品番号	描画年齢	子ども 言葉の記録	発達段階	
			有●	描画	表象				有●	描画	表象
1	D-1 (1)	1歳8か月	—	スクリブル後期	動作的表象	37	D-3 (7)	2歳10か月	●	ダイアグラム〈単体図〉の表出	動作的表象期から映像的表象期
2		1歳8か月	—			38	D-3 (8)	2歳10か月	●		
3		1歳8か月	—			39	D-3 (9)	2歳10か月	●		
4		2歳0か月	—			40	D-3 (10)	2歳10か月	●		
5		2歳0か月	—			41	D-3 (11)	2歳10か月	●		
6	D-1 (2)	2歳3か月	—	42	D-3 (12)	2歳10か月	●				
7		2歳4か月	—	43	D-3 (13)	2歳10か月	●				
8	D-1 (3)	2歳4か月	●	44	D-3 (14)	2歳10か月	●				
9		2歳8か月	●	45	D-3 (15)	2歳10か月	—				
10	D-2 (1)	2歳9か月	●	46		2歳10か月	—				
11	D-2 (2)	2歳9か月	—	47	(1)	2歳11か月	●				
12	D-2 (3)	2歳9か月	—	48	(2)	2歳11か月	●				
13	D-2 (4)	2歳9か月	●	49	(3)	2歳11か月	●				
14	D-2 (5)	2歳9か月	—	50	(4)	2歳11か月	●				
15	D-2 (6)	2歳9か月	—	51	(5)	2歳11か月	●				
16	D-2 (7)	2歳9か月	—	52	(6)	2歳11か月	—				
17	D-2 (8)	2歳9か月	—	53	(1)	2歳12か月	—				
18	D-2 (9)	2歳9か月	●	54	(2)	2歳12か月	—				
19	(1)	2歳9か月	●	55	(3)	2歳12か月	—				
20	(2)	2歳9か月	—	56	(4)	2歳12か月	—				
21	(3)	2歳9か月	—	57	(5)	2歳12か月	—				
22		2歳9か月	—	58	(6)	2歳12か月	—				
23	(1)	2歳9か月	●	59	(1)	3歳	—				
24	(2)	2歳9か月	●	60	(2)	3歳	—				
25	(3)	2歳9か月	—	61	(3)	3歳	—				
26		2歳9か月	—	62	D-4 (1)	3歳	●				
27		2歳9か月	●	63	D-4 (2)	3歳	●				
28		2歳9か月	●	64	D-4 (3)	3歳	●				
29	(1)	2歳10か月	●	65	D-4 (4)	3歳	●				
30	(2)	2歳10か月	—	66	D-4 (5)	3歳	●				
31	D-3 (1)	2歳10か月	●	67	D-4 (6)	3歳	●				
32	D-3 (2)	2歳10か月	●	68	D-4 (7)	3歳	●				
33	D-3 (3)	2歳10か月	●	69	(8)	3歳	—				
34	D-3 (4)	2歳10か月	●	70	(9)	3歳	—				
35	D-3 (5)	2歳10か月	●	71	D-4 (10)	3歳	●				
36	D-3 (6)	2歳10か月	●	72	D-4 (11)	3歳	—				

3. ダイアグラム〈単体図〉における描画の特徴

(1) 偶発的ダイアグラム

幼児は、自分の描いたスクリブルの与える視覚的刺激に反応する。基本的スクリブルを描く間に視覚的統制を身につけるので、幼児はスクリブルによって配置様式を完成し、また、スクリブルによって偶発的ダイアグラムを作るようになる。

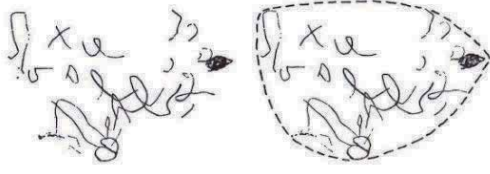
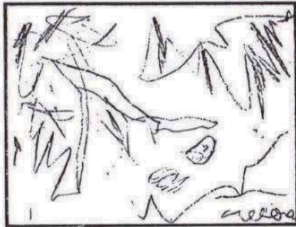
(Rhoda Kellogg 1998 深田訳, p.49)

スクリブル後期、自由な方向から描画されたスクリブルの中に、一定の領域を持ったスクリブルが表出する。ローダ・ケログは、子どもが明確な円、三角、四角（矩形）の描画表現を獲得する前段階として、描画されたスクリブルが丸、三角、四角（矩形）あるいは不定形の形態に包括され、それらを示唆するスクリブルによる描画を「偶発的ダイアグラム」〔図2〕と定義している。

スクリブル期に獲得した基本的スクリブル（Rhoda Kellogg 1998）の獲得は、描画した描線、画面上の位置、余白、画面全体の記憶へと広がり、それぞれのスクリブル全体が示唆する形態への認知へとつながる。ダイアグラム〈単体図〉において、単線で円、三角、四角（矩形）が表出するまでに、子どもは表現への探索と実験を繰り返しダイアグラム〈単体図〉への移行を確かなものにしていく。

男児 K の描画作品において、偶発的ダイアグラムは不定形から円、四角（矩形）、三角の順で表出が認められた。〔図2. 作品 D-1(1)~(3)〕最も早く認められた円は、男児 K のスクリブル期から繰り返し描画運動を重ね、形態の記憶が確実に蓄積されたことにより最初に獲得した形態である。円の獲得はダイアグラム〈単体図〉の描画表現をより豊かに展開させ、表象画の描画へと繋がる。

図2. 「偶発的ダイアグラム」作品 —ダイアグラム〈単体図〉への移行—

	
<p>示唆された不定形とその輪郭線（3歳2か月） スクリブルの形の外の輪郭によってダイアグラムが示唆される。</p>	<p>示唆された四角形とその輪郭線（2歳3か月） スクリブルの形の外の輪郭によってダイアグラムが示唆される。</p>
<p>「偶発的ダイアグラム」 不定形・四角形</p>	<p>出典（Rhoda Kellogg 1998 p.39,43）</p>

男児 K の「偶発的ダイアグラム」作品 (円形・四角形・三角形)	
D-1 (1) 男児 K (1 歳 8 か月) 示唆された円形とその輪郭	
D-1 (2) 男児 K (2 歳 3 か月) 示唆された四角 (矩形) とその輪郭	
D-1 (3) 男児 K (2 歳 4 か月) 示唆された三角とその輪郭	

(2) ダイアグラム〈単体図〉の表出

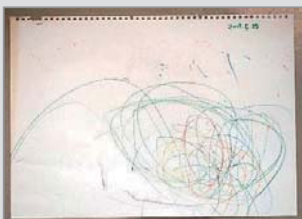


幼児は2歳までに自分の描くスクリブルをある明確な配置様式の中に納めるものだ。すなわち形は紙面との関係を保って配置される。3歳までには、単線〔往復運動による複線ではなく〕で十字形を作ったり、円、三角、その他の形―ダイアグラムを描くようになる。これらのダイアグラムに先立って偶発的ダイアグラム型が描かれるのだ。(Rhoda Kellogg 1998 深田訳, p.37)

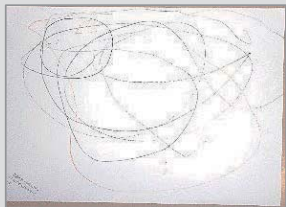
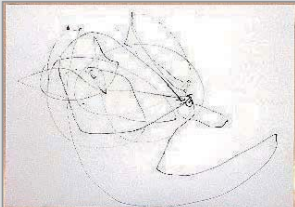
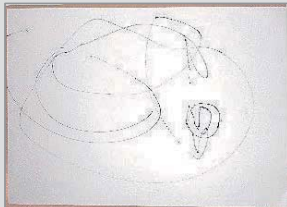
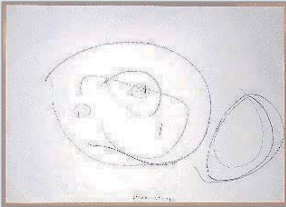
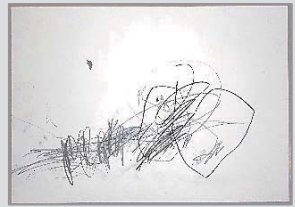
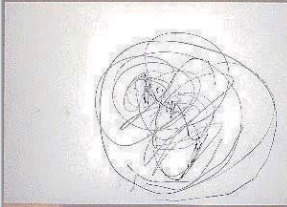
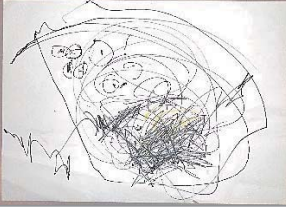
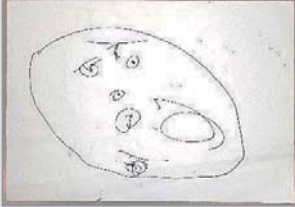
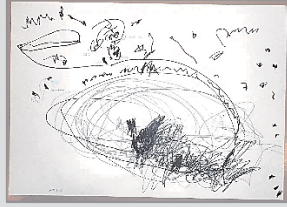
ダイアグラム〈単体図〉への移行とともに、円、三角、四角(矩形)といった形態の獲得から、描画の意味づけ、イメージの共有、共感へとつながる「表象画」の描画を介して他者とのコミュニケーションを活発にする。ダイアグラム〈単体図〉期は、動作的表象期を中心としながら、生活、あそび、表現の体験を重ね、自分がひとり人間として存在することを認識していく過程として全ての領域と関わりながら表現活動をより豊かに展開させ、映像的表象期への歩みを確実に進める。

4. ダイアグラム〈単体図〉描画の考察

描画作品表Ⅰ～Ⅲの表記内容

- ① 表2. の作品番号
- ② 描画時の年齢と週齢
- ③ 描画時の表象期
- ④ 描画中の子どもの言動、語り掛けの記録（保育者による記録）
- ⑤ 作品サイズ（縦×横 mm）

Ⅰ. スクリブル後期～ダイアグラム〈単体図〉への移行開始と移行期作品		
作品 D-1 (1) ① 表2. 作品番号 1 ② 1歳8か月（92週目） ③ 動作的表象期 ④ なし ⑤ F6（318×410mm）	作品 D-1 (2) ① 表2. 作品番号 6 ② 2歳3か月（123週目） ③ 動作的表象期 ④ なし ⑤ 四つ切（392×542mm）	作品 D-1 (3) ① 表2. 作品番号 8 ② 2歳4か月（146週目） ③ 動作的表象期 ④ 「おふねのせんろ」 ⑤ 四つ切（392×542mm）
		
<p>作品 D-1 (1)～(3)は、スクリブル期にあった男児 K にとって、ダイアグラム〈単体図〉への移行が表れる初期段階の描画であり、図2. に示された偶発的ダイアグラムの表出が認められる作品である。表象の発達段階においては動作的表象期にあり、描画運動と運動から生じる描線、形態の記憶の積み重ねから映像的表象期の獲得へと進む。作品 D-1 (1)は男児 K の描画群の中で偶発的ダイアグラム（円形）が最初に描画された作品である。作品 D-1 (2)はスクリブルの外輪形状から四角形、よりダイナミックに描画された作品。作品 D-1 (3)は三角形の偶発的ダイアグラムが示唆されている。スクリブル後期、これまで描画したスクリブル形態と画面全体の構図「配置様式」（Rhoda Kellogg 1998）への認知と記憶、自身の手の動きも含め画面全体を視野に入れて描画され、ダイアグラム〈単体図〉への移行が認められる描画作品である。</p>		
作品 D-2 (1)～(9)【全9点】 ① 表2. 作品番号 10～18（9点同日連続描画） ② 2歳9か月（147週目） ③ 動作的表象期 ④ 9点中3点〔D-2 (1), (4), (9)〕内容は各作品下に表記 ⑤ 9点全て 四つ切（392×542mm）		

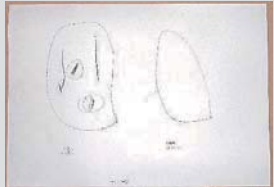



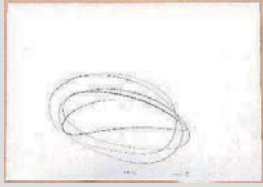
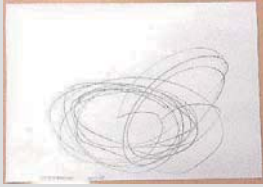
		
<p style="text-align: center;">D-2 (1)</p> <p>「茶色はせんろ→おんせん、 おれんじ、でんしゃ→せんろ くま」</p>	<p style="text-align: center;">D-2 (2)</p>	<p style="text-align: center;">D-2 (3)</p>
		
<p style="text-align: center;">D-2 (4)</p> <p>「はい、かいとくん、 おおきいです」</p>	<p style="text-align: center;">D-2 (5)</p>	<p style="text-align: center;">D-2 (6)</p>
		
<p style="text-align: center;">D-2 (7)</p>	<p style="text-align: center;">D-2 (8)</p>	<p style="text-align: center;">D-2 (9)</p> <p>「泣いているかいとくん」「ラ イオン・しっぽ」「なまえ」</p>
<p>作品 D-2 (1)~(9) 9 点は、全て同じ日に連続して描画された。表象の発達においては動作的表象を中心としながら映像的表象期の兆候も表れる。D-2 (1)で保育者(母)へ一語文による語り掛けがなされ、テーマは「せんろ、おんせん、電車、くま」へと描画の中で展開される。保育者の見守りと言葉かけへの反応、自身の描画運動から生じる描線に視覚的刺激を受け、語り掛けと共に描画も展開される。作品 D-2 (1)~(3)の画用紙幅〔542mm〕を大きく使った躍動感のある描線から、身体的成長と運動能力、他者(母)へ向けて表現する意欲が充実しているのが分かる。作品 D-2 (4)は偶発的ダイアグラムからダイアグラム(単体図)へ向け、整理された輪郭線による円の描画、さらに複数の円の構成により『顔』が表出。「はい、かいとくん、おおきいです」という子どもの語り</p>		

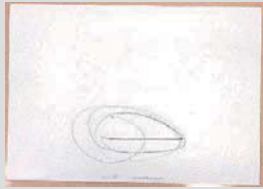

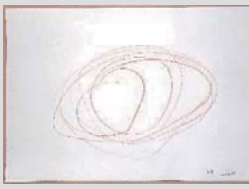






掛けから、明確な認識を持って『顔』の「表象画」が描画された。作品 D-2 (5)~(7)はスクリブルとダイアグラム〈単体図〉が混合して描画されている。男児 K のスクリブル期~絵画期まで全ての描画の発達過程において新しい描画表現が表出し、描画の発達が認められる前後、スクリブルが描画されていることから、作品 D-2 (5)~(7)で更に表現の探索が行われ、作品 D-2 (4)の『顔』から、新たな試みとして作品 D-2 (8)が描画された。作品 D-2 (9)は作品上部の『顔』、その下に「ライオン」、波型の描線は「せんろ」と題され、さらに小さい波型の塊は「なまえ」として描画された。「なまえ」と題された形態は、文字の模倣であり、日常生活のなかで目にする文字形態を記憶し、描画に取り入れ表現を試みている。動作的表象期にあり、文字の認識は明確ではない。生活の中で目にした形の模倣は新たなスクリブルの獲得へと繋がり、ダイアグラム〈単体図〉の描画で活用される。D-2(1)~(9)の9点の作品からダイアグラム〈単体図〉への移行が確実なものとなった。

II. ダイアグラム〈単体図〉の表出作品

作品 D-3 (1)~(15) 【全 15 点】

- ① 表 2. 作品番号 31~45 (15 点同日連続描画)
- ② 2 歳 10 か月 (152 週目)
- ③ 動作的表象期
- ④ 15 点中 14 点 [D-3 (1)~(14)] 内容は各作品下に表記
- ⑤ 15 点全て 四つ切 (392×542mm)

		
<p style="text-align: center;">D-3 (1)</p> <p>左：「こが先生 さいとう先生」 右：「みんな ウィンナー」</p>	<p style="text-align: center;">D-3 (2)</p> <p>左：「ウィンナーのがつと」 右：「おばけ」</p>	<p style="text-align: center;">D-3 (3)</p> <p>左：「スプレーシャー プタブタ」 右：「スプレーシャー」</p>
		
<p style="text-align: center;">D-3 (4)</p> <p>「スプレーシャー」</p>	<p style="text-align: center;">D-3 (5)</p> <p>「スプレーシャー」</p>	<p style="text-align: center;">D-3 (6)</p> <p>「グルグルまきのお母さんと れもんと」</p>

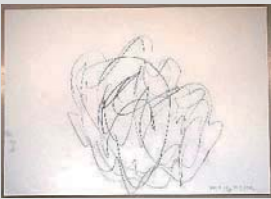

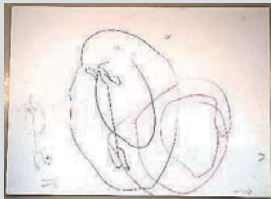



		
D-3 (7) 「グルグルまきのお母さんと おじいちゃん」	D-3 (8) 「おにぎり」	D-3 (9) 「お茶」
		
D-3 (10) 「お母さんがたって、こどもが こうやって、だっこしようと」	D-3 (11) 「もこちゃんのかお」 「からだ」「しっぽ」	D-3 (12) 「ブルーベリー」
		
D-3 (13) 「いっばいつよくかいたよ」 「かいだん、しゅーってして」	D-3 (14) 「みて、いっばいかいた」 「あったくのはし」	D-3 (15)
<p>作品 D-3 (1)～(15)の 15 点は同日に連続して描画された。作品 D-2(1)～(9)の描画から 1 か月経過し、日常生活やあそび、人間関係の広がりとともに表象と描画の発達を進める。表象においては動作的表象期から映像的表象期の獲得へ向かっている。作品 D-3 (1)では左側ひとつのダイアグラム〈単体図〉にふたりの人物を示し、右のダイアグラム〈単体図〉は「みんな」から「ウィンナー」へと変換された。言語の発達に伴い“意味づけの絵”も盛んになり、描画時の言動や保育者（母）への語り掛け（コミュニケーション）も増加する。表象画を介した他者との共通認識を楽しみ、自分の存在を確認する。作品 D-3 (3)～(5)は、保育者がスプレーを噴射した際、スプレーから噴き出る勢いと音の印象を描画と言葉で保育者に表現しながら繰り返し描画された。繰り返し同様のダイアグラム〈単体図〉の描画から安定して表現された作品 D-3 (6)において「ぐるぐるまきのお母さんとれもん」として複数のダイアグラム〈単体図〉が構成され、連続して作品 D-3 (7)「お母さんとおじいちゃん」へ意味づけが展開され、中央に明確な一文字が入るダイアグラム〈単体図〉を描画。作品 D-3 (8)～(10)のダイアグラム〈単体図〉は作品 D-3 (8)の</p>		


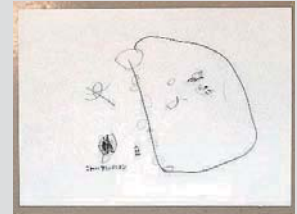

形態、配置様式が継承され、それぞれ違う意味づけがなされた。作品 D-3 (8)はこの日描画された作品の中で最も安定した円を重ねて描画し、更に作品 D-3 (9)では円を横にずらしながら描画表現するアレンジが加わり、作品 D-3 (10)は上下に、作品 D-3 (12)は中心から外に向かって渦巻状に円が描画された。連続して描画する中で生まれた変化に刺激を受け、それをきっかけに同形のダイアグラム〈単体図〉からパリエーションが増える。作品 D-3 (13)~(15)は他者と自分の表現が共感、受容されたことが原動力となり更にスピード感のある描線によるダイアグラム〈単体図〉の表現と「いっぱいよかいたよ」といった自己主張へと繋がった。この日の 15 点に及ぶ継続的な円表現から描画運動の調整能力の発達、新たなダイアグラム〈単体図〉の獲得が確認できる。

Ⅲ. ダイアグラム〈単体図〉からコンバイン〈結合図〉への移行開始作品

作品 D-4 (1)~(7),(10),(11) 【全 9 点】同日描画作品(8),(9)を除く

- ① 表 2. 作品番号 62~68,71,72 (同日連続描画作品 11 点より 9 点抜粋)
- ② 3 歳 (163 週目)
- ③ 動作的表象期から映像的表象期
- ④ 11 点中 7 点 [D-4 (1)~(5),(7),(10)] 内容は各作品下に表記
- ⑤ 11 点全て 四つ切 (392×542mm)

		
D-4 (1) 「こわいアンパンマン」	D-4 (2) 右上「しょくぼんまん へんなのね、ちがうね」 右下「へんなカレーパンマン」 「線からはみ出たらいかんと」	D-4 (3) 「ウルトラマンあしもかいた」 自分で目や足の解説
		
D-4 (4) 「しらない へん どかん」	D-4 (5) 「しゃかしゃかしゃか」 音をだしてたのしむ	D-4 (6)

		
<p style="text-align: center;">D-4 (7) 「へんなおぼけ」</p>	<p style="text-align: center;">D-4 (10) 「くるま」 左下「こわいアンパンマン」</p>	<p style="text-align: center;">D-4 (11)</p>
<p>作品 D-4 (1)～(7),(10),(11) は作品 D-3 (1)～(15)から 2 か月経過して 3 歳になり、同日 9 点連続して描画された。描画に立ち合う保育者への語り掛けの語彙も増える。作品 D-4(1)は、波型で統一された描線で画面上に明確な領域を持って描画されたダイアグラム〈単体図〉である。男児 K の描画の中で、波型の描線はスクリブル期から頻りに描画され、本作では「こわいアンパンマン」のイメージを波型の描線によるダイアグラム〈単体図〉で表現している。「こわい」という印象を表現する描線とアンパンマンの形態の記憶からひとつの形が創造され、描画に感情表現が表れる。作品 D-4 (2)～(4)は、作品 D-4(2)で重ねて描画された円形、作品 D-4 (3)では円形から人に展開され、その鼻から直線が引かれ足が連結された。作品 D-3 (7)で描画された円形の中央に明確な一文字が入るダイアグラム〈単体図〉の応用が見られ、2 か月前に描画した形態の映像記憶を基に新しい表現に取り組む子どもの描画能力が表れている。作品 D-4 (4)は作品 D-4 (3)に赤い線で描画されたダイアグラム〈単体図〉から更に整理された円形となる。作品 D-4 (5), (6) 複横線のスクリブルに縦線が組み合わされた構図は、男児 K のスクリブル初期段階 1 歳 6 か月から描画が確認され、度々描画されてきた“お気に入りの絵”である。作品 D-4 (5)「しゃかしゃかしゃか 音をだしてたのしむ」との記録から、描画する際の音、描画素材から手に伝わる感覚と視覚的刺激を楽しみながら五感を使って描画活動に挑み、勢いのある描線を残している。ローダ・ケロッグ (Rhoda Kellogg 1998) は、それぞれの子供がスクリブルを組み合わせる際、自分の好みの形態表現を持っている点について、この傾向は脳の生理に基礎を置くと述べている。作品 D-4 (7)「へんなおぼけ」のダイアグラム〈単体図〉は作品 D-4 (6)の形態を一部取り込み、新たに構成、描画された。作品 D-4 (10)大小複数のダイアグラム〈単体図〉の構成により「くるま」が表現され、更に乗車する人物の『顔』も描画される。作品 D-4 (10),(11)に見られる複数のダイアグラム〈単体図〉の構成は、描画の発達段階においてふたつの形を結合しようとする実験が開始される、コンバイン〈結合図〉の移行が開始されていることが確認できる。表象の発達においては、動作的表象期(感覚運動的把握)と映像的表象期(映像による対象の把握)の中にある。</p>		

5. まとめ ～ダイアグラム〈単体図〉への関わり～

ダイアグラム〈単体図〉における五感を通じた描画体験を通し感覚的、視覚的刺激を受け○、△、□といった幾何学形態や明確な十文字などの描画から、文字の獲得へとつながる表現の基礎形態を体得していく。記号化された幾何学形態の表現から他者との共通認識を可能にする「表象画」の描画へと導かれ、他者とのイメージの共有と共感から描画への充実感を高め、ダイアグラム〈単体図〉からコンバイン〈結合図〉へと発達の歩みを進める。

スクリブル期からダイアグラム〈単体図〉の描画は0歳から3歳までの人間形成における重要な発達時期と重なり、保育者の愛情と見守り、それぞれの子どもの探索方法に寄り添った援助により、すべての領域と関わり手さぐりしながら生活やあそびの体験から表現力を育み、脳や安定した精神、対人関係から自己（人格）を形成する。

「表象画」の描画が開始され、描画を介したコミュニケーションとともに、発する言葉や表現が受け止められることに喜びと表現への意欲を高めながら発達へ導かれるこの時期、活動を援助する保育者としては、子どもの描画活動の観察から、それぞれの描画発達段階を理解することが重要になる。

ダイアグラム〈単体図〉を中心とした描画の発達段階にある3歳クラスを担当する保育士から「クラスでテーマを設定してお絵描きをする際、グルグル描き（スクリブル）を繰り返し描く子どもがいます。このような子どもには、保育者が見本を描いて、描き方を示してあげるほうがいいのでしょうか」という質問を受けたことがある。

ローダケロッグ（Rhoda Kellogg 1998）は、ダイアグラム〈単体図〉コンバイン〈結合図〉アグリゲイト〈集合図〉は幼児画の発達面から見ると、ほとんど同時期に出現すると述べている。2歳から3歳にかけ1年間ほどの短い期間のなかでスクリブル期からダイアグラム〈単体図〉への移行、更にコンバイン〈結合図〉と絵画の発達段階における3つの段階を進むため、同じ3歳児クラス内でも子どもの発達段階に個性が表れる。それぞれの子どもの発達段階に則ってクラス内で様々な作品が生み出されるため、他の子どもと描画表現が比較され、保護者からの質問や心配の声も生じやすいのである。

男児Kの作品D-2(5)～(7)はスクリブルとダイアグラム〈単体図〉が混合して描画されている。筆者による幼児表象画の縦断的記録の検証（竹永・埴 2017）において、スクリブル期から絵画期まで全ての描画発達段階で、子どもが新しい表現の探索をスクリブル描画の中で行っているのが確認された。表象の段階においても、動作的表象に加え映像的表象の獲得へそれぞれの子どものタイミングで進む過程で、子どもの描画表現が発達によって異なるのが自然な状態であり、その違いに優劣の差はない。子どもは自分の描画発達段階のなかで実体験から獲得してきた形態を用いて描画するため、描画活動に寄り添う保育者は伸び伸びと描画できる環境を整え、スクリブル描画に制約や干渉することなく、描画を介した子どもの主張に反応し共感することが表現への探索意欲を高め、自発的活動への勇気づけとなる。

男児Kはダイアグラム〈単体図〉の移行からダイアグラム〈単体図〉、コンバイン〈結

合図)の移行開始まで、およそ4か月という描画発達の中で同じイメージを共有できる形態「表象画」の描画に至り、この道のりは描画から文字の獲得、表象においては象徴的表象期へ向かう。今後更に男児Kの縦断的描画作品群の検証と描画発達の研究を深めたい。

あとがき

筆者が20歳の頃、3歳と4歳の子どもと熊本の阿蘇へ旅をした。阿蘇五岳のひとつ根子岳を仰ぎ見た瞬間「わーチカチカした山だねー」と子どもが叫んだ。根子岳のギザギザとしたノコギリ刃のような稜線の形状が、何かを触った際にチカチカと感じた指先の感覚体験のイメージと重なったのだろう。今思えばこの何気ない一言は、動作的表象期を中心としたダイアグラム(単体図)期にある子ども特有の表現だったと理解できる。

根子岳には、かつて神の逆鱗に触れ、竹の棒で山頂を叩かれて現在のギザギザとした形状になったという伝説が残る。「表象画」の描画と、その描画を介して他者とのイメージの共有が開始されるダイアグラム(単体図)期は、物の形から目の前にない物を想像し、神話や伝説を創造し継承してきた人間共通の原初的な創造起点の時期と言えるのだ。

参考文献

- 斎藤亜矢著、(2014)『ヒトはなぜ絵を描くのか 芸術認知科学への招待』、岩波書店。
- J. S. ブルーナー著、岡本夏木他訳(1976)『認識能力の成長(上)』、明治図書出版。
- 清水満、小松和彦、松本健義著(2010) 幼児教育知の探究『表現芸術の世界』、萌文書林。
- 高橋佳也著、『阿蘇の昔むかし 白川の民話』、建設省立野ダム工事事務所。
- 竹永亜矢・埜和道著、(2017)「美術表現研究 講義「幼児表象画」の縦断的記録の検証」『近畿大学九州短期大学研究紀要』、第47号 pp.64 - 84
- 竹永亜矢・埜和道著、(2018)「美術表現研究 講義「幼児表象画」の描画の発達と特徴」『近畿大学九州短期大学研究紀要』、第48号 pp.38 - 53
- 竹永亜矢著、(2019)「美術表現研究 講義「幼児表象画」スクリブル期の描画発達」『近畿大学九州短期大学研究紀要』、第49号 pp.37 - 51
- 勅使千鶴、(2004)『子どもの発達とあそびの指導』、ひとなる書房。
- 鳥居昭美著、(1995)『子どもの絵をダメにしていますか?』、婦人生活社。
- 内閣府編著・文部科学省編著・厚生労働省編著、(2017)『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』、チャイルド本社。
- 埜和道・竹永亜矢著、(2016)「幼児表象画に学ぶ、講義「人物画物画演習」の導入法と描法」『近畿大学九州短期大学研究紀要』、第46号 pp.47 - 51
- 宮武辰夫著、(1985)『幼児の絵は生活している』、博文社。
- ロジェ・カイヨワ著、多田道太郎、塚崎幹夫訳(2017)『遊びと人間』、講談社。
- ローダ・ケログ著、深田尚彦訳(1998)『児童画の発達過程 —なぐり描きからピクスタチャへ—』、黎明書房。